第8号
2012.10

文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型）」
ウーマン・テニュア・トラック教員制
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

Newsletter

特集

WTTウーマン・テニュア・トラック
おかやまサイエンス・トーク

もくじ

「女性研究者支援モデル育成」事業終了後の
本学の男女共同参画の取組について …… 1
特集１ WTT ウーマン・テニュア・トラック …… 2・3
特集２ おかやまサイエンス・トーク …… 4・5
2012 年岡山大学オープンキャンパス参加企画／
「プロフェッショナルを目指すあなたへ」 …… 6
研究支援制度利用者紹介／第１回 交流サロンの実施
女性サポート相談室だより …… 7
男女共同参画室　室員および関係スタッフ紹介新室員紹介／
男女共同参画の現状⑤大学院への進学状況／
今後の予定／編集後記 …… 8

「女性研究者支援モデル育成」事業終了後の本学の男女共同参画の取組について

男女共同参画室
室長　沖　陽子
（大学院環境生命科学研究科・教授）

岡山大学では、平成 21 年度に「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン（進化プラン）」が「女性研究者支援モデル育成」事業（文部科学省科学技術振興調整費）に採択されて以来、女性研究者を積極的に採用し、働きやすい教育・研究環境を整備すると共に、学生や大学院生など研究者の裾野を広げるための取組を行ってきました。ダイバーシティ推進本部（本部長：許南浩企画・総務担当理事）に加え、平成 23 年度からは、学長を委員長とするダイバーシティ推進委員会が活動を開始し、全学的に男女共同参画に関する意思決定を行っています。現在は、女性教員の割合を 20% にするという目標達成に向けて各部局での進捗状況の確認を行っています。

「進化プラン」は昨年度で終了しましたが、取組は、その後も下記の通り着実に継続しています。

今後とも、皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

進化プランの継続状況

雇用

女性教員数を増やすため、ウーマン･テニュア･トラック（WTT）教員制を平成 22 年度より運用し、これまでに 11 名の女性研究者を特任助教として採用しています。WTT 教員制は平成 23 年度から文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関選抜型・個人選抜型）」に選定されるなど、制度および WTT 教員の質が高く評価されています。同時に、本学の教員公募文書には、女性の応募を歓迎する旨の文言を記載しており、学内外の女性研究者にアピールしています。

研究サポート体制

専門分野や性別を問わず、本学の研究者が育児や介護によって研究活動に支障が生じないように研究補助者を配置する研究支援員事業は、現在も 6 名（10 月からは 8 名となる予定）が利用しています。また、女性研究者を心理面からサポートするために設置された女性サポート相談室も年々利用者数が増えています。他にも、若手研究者向けに研究スキルアップ講座を実施し、多くの方々に参加していただいています。

持続性

学部生向けには全学教育科目として男女共同参画の視点に立ったキャリア科目を提供しています。また、中高校生向けに研究紹介を行う「おかやまサイエンス・トーク」や「オープンキャンパス」での女子高校生への研究紹介・進路支援では、WTT 教員や大学院生に協力を求めて、彼女達のプレゼンテーション力の向上や人的ネットワークの拡大に役立ててもらっています。

意識啓発・広報活動

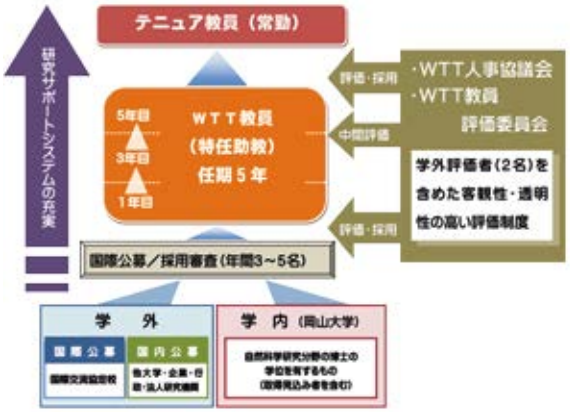
「進化プラン」期間中に 9 回実施してのべ 400 名もの方に参加していただいた交流サロン、管理職セミナー、シンポジウム等を、今後も実施する予定です。

なお、男女共同参画室は、これまでの部門体制を見直し、より効率的に WTT 教員をサポートする部門体制（事業推進、WTT 事業、持続型人材育成、ワークライフサポート）としました。専任助教と人事課ダイバーシティグループ（事務職員 3 名）からのサポートを得ながら、大地に根を下ろした活動を続けていきます。

ウーマン・テニュア・トラック（WTT）教員制の概要

WTT教員制とは、女性研究者を対象に5年間助教（WTT教員）として本学に受け入れ、専門分野の近い研究科において独立した教員としての経験を積み、評価委員会等においてテニュア教員の採用基準に達していると評価されればテニュア教員として採用される人事システムです。本学独自の教員養成システムで、平成22年4月からスタートしています。

テニュア：任期の定めのない常勤職員又は国立大学法人岡山大学教員の任期に関する規則に定める再任可能な任期付き常勤職員（再任回数に制限がある職をのぞく）としての身分。



第1回 WTT教員交流会 実施報告

6月7日、創立50周年記念館にて平成24年度第1回WTT教員交流会を開催しました。

交流会には、第1期から第3期のWTT教員とそのメンター教員、男女共同参画室員に加え、教職員有志合計24名が参加しました。

先ず、男女共同参画室長である沖 陽子 教授（大学院環境生命科学研究科）が「雑草に学んだ我が人生観」と題して、幼少期に始まり大学、大学院等の人生の各段階における人との出会いや進路選択の経緯等について話題提供しました。人生観として、沖教授の専門分野である雑草科学と関連づけ、「自然体で生きる」というメッセージを送りました。

その後、4～5名に分かれて行ったグループ懇談では、話題提供の内容や沖教授から『最近、思うこと!!』として提示された6つの設問 について自由に懇談しました。

WTT教員交流会は、WTT教員が学内における人的ネットワークを広げる事を主な目的として年2回定期的に行っています。平成24年度の第2回交流会は10月30日（火）15:00より教育学部第一会議室で行う予定です。学内の教職員の方のご参加をお待ちしています。

知りたい！ 研究予算の確保と有効な使い方 実施報告

学内講師2名の協力を得て、6月7日に創立50周年記念館にて平成24年度第1回研究スキルアップ講座「知りたい!研究予算の確保と有効な使い方」を実施しました。

「科研費審査員として見えるもの」では、2009年度に模範審査意見を付した審査委員として日本学術振興会に表彰された田村　隆 准教授（大学院環境生命科学研究科）が、申請書の準備の仕方や実際の書き方について講演しました。審査委員経験者の立場に立ったアドバイスだけでなく、自らの申請準備ノートや申請書を回覧して若手教員に手本を示しました。

「科研費以外のいわゆる競争的資金の最新動向」では、NEDO、JST等の外部資金（受託系）で数多くの採択実績がある押木 俊之 講師（大学院自然科学研究科）が講演しました。「いわゆる競争的資金」の性格や選定過程について科研費との違いを指摘しながら説明し、更に研究者として資金獲得および有効利用のためどのように情報収集等を行うかについてアドバイスしました。

助教を中心に40名余りが参加し、講演に熱心に聞き入っていました。また、講師に対する質問も多数あり、研究予算の確保と有効な使い方に対する関心の高さがうかがわれました。

お知らせ

平成24年度第2回研究スキルアップ講座は、10月30日（火）13:15より東京農工大学から船田　良 氏（大学院連合農学研究科・研究科長）を招いて行います。演題は「若手研究者の活力が大学のレベルを決める－東京農工大学の戦略」、会場は教育学部第一会議室です。皆さんぜひご参加下さい。

第Ⅲ期WTT教員紹介

日浅（ひあさ）　未来（みき）

所　属	大学院医歯薬学総合研究科
最終学歴	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程修了
前　職	徳島文理大学薬学部　助教

［研究内容］

生体内のエネルギー通貨であるATPには、細胞間での情報のやりとりを担う伝達物質としての側面もあります。細胞からのATP分泌メカニズム、さらには生体内でのATPの新たな生理作用を明らかにすることを目標に研究しています。

［WTT 教員になっての抱負］

学位取得後、学振PDや助教を経て、WTT教員として母校に戻ってまいりました。現在は薬学部棟にて研究していますが、まわりは女子学生の比率も高く研究への熱意も非常に高く感じられます。彼女らにとって（もちろん男子学生の皆さんにとっても）お手本となれるよう、研究に教育に精進していきたいと考えています。よろしくお願いいたします!

本田（ほんだ）　恭子（やすこ）

所　属	大学院環境生命科学研究科
最終学歴	京都大学大学院農学研究科　博士課程修了
前　職	京都府立農業大学校　非常勤講師

［研究内容］

農地や水路といった地域の資源は農業に利用されるだけでなく、都市住民の生活にも不可欠な多面的機能を持っています。しかし、現在農業と農村の衰退により、地域資源の荒廃が大きな問題となっています。私は都市住民も巻き込んだ新しい地域資源の管理システムを実現すべく、社会・経済学的な研究を行っています。

［WTT 教員になっての抱負］

私はこれまで日本の農村で研究をして参りましたが、所属研究室ではアジア各国の農村も対象にしており、アジアの多様な自然や社会、そこでの地域資源管理との比較を通して、これまでとは違った視点から日本の資源管理を捉えることができ、研究に深みと広がりが加わると感じています。また、所属学科の先生方は、専門は異なるものの問題意識などで共通点が多く、私の研究を理解し応援して下さると同時にたくさんの刺激も頂いております。このような恵まれた環境を活かして、学生とともに楽しみながら研究に励みたいと考えております。

門田（もんでん）　有希（ゆき）

所　属	大学院環境生命科学研究科
最終学歴	京都大学大学院農学研究科　博士課程修了
前　職	京都大学大学院農学研究科　日本学術振興会特別研究員（DC1）

［研究内容］

生物のゲノム上にはトランスポゾンとよばれる“転移し、コピーを複製する”DNA配列が存在しています。それらの挿入位置の違いをDNAマーカーとして利用することにより、農作物品種の識別および判定をすることが可能です。転移活性を示すトランスポゾンを有効に活用し、農作物判定技術の開発、作物の伝播経路の解明および優良作物品種作出を目指した大規模遺伝解析に取り組みます。

［WTT 教員になっての抱負］

日々、大学院生と関わりながら、わくわく楽しんで研究できる今の状況に、とても幸せを感じています。メンターの先生を含め、周りの先生方も非常に親切な方ばかりで、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

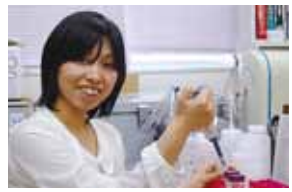
今後、WTT教員として学生たちといい意味で刺激を受けあいながら、研究に取り組み、科学を追究するおもしろさを一人でも多くの学生に伝えていけたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

山本（やまもと）　ゆき

所　属	大学院環境生命科学研究科
最終学歴	岐阜大学大学院連合獣医学研究科（配属：東京農工大学）
前　職	東京農工大学農学院動物生命科学部門　特別研究員

［研究内容］

ほ乳類の雌には、卵巣・卵管・子宮という生殖器官があります。その中で、卵管は卵巣と子宮をつなぐ配偶子の移送器官であり、受精や初期胚発生の場となる非常に重要な器官です。そのため、卵管機能の異常は生殖機能に致命的なダメージとなります。ウシの卵管機能を調節するメカニズムを生理学的に解明し、家畜の増産やほ乳類の不妊治療などに貢献することを目的としています。



［WTT 教員になっての抱負］

多くの方に助けていただきつつ、この度WTTという大きなチャンスを頂きました。日本には女性研究者がまだまだ少ないのが現状です。駆け出しの未熟な研究者ではありますが、これからWTT教員として、皆さんとともに盛り上げていければと思います。学生さんには、在学中にぜひ様々な経験を通して多くのことを吸収してほしいです。そのお手伝いができるように、教育者としても尽力していきます。

子育てを頑張っています！

第Ⅰ-Ⅱ期WTT教員紹介

活躍中の第Ⅰ期（4 名）、第Ⅱ期（3 名）の WTT 教員の中から今回は 2 名を紹介させていただきます。

保育園のお迎えまでの限られた時間で仕事。帰ってから息つく間もなくご飯、風呂、寝かしつけて、洗濯。次の朝 5 時には子どもが起きて朝食、支度。仕事と家庭のバランスを考える余裕もなく毎日が過ぎていきます。子育て歴 2 年、WTT 教員として仕事歴 1 年、どちらもスタートしたばかり。サポートして下さる先生はじめ周囲の方々、家のことは何でもこなす夫と朝早くから保育園で過ごし迎えに行くと笑顔で待っている子どもたち、みんなのおかげで過ごせている感謝を忘れずに、今日も前に進んでいます。

第Ⅱ期 WTT 教員
大学院保健学研究科　助教　**飯尾　友愛**

今年 1 月に出産し、女の子の母親になりました。たくさんの人の協力のもと、仕事に復帰することができ、今は研究と初めての子育てとの両立に奮闘しています。以前のように時間は自由に使えなくなりましたが、その分限られた時間をいかにうまく使うか常に意識するようになり、生活にメリハリが生まれました。毎朝 5 時には満面の笑みで私を起こしてくれるので、眠い目をこすりながらも、出勤前の娘とふれあう時間を大切にしています。

第Ⅰ期 WTT 教員
資源植物科学研究所　助教　**三谷　奈見季**

特集2 おかやまサイエンス・トーク

おかやまサイエンス・トークとは?

おかやまサイエンス・トークとは、岡山大学の若手女性研究者であるWTT教員と大学院生が、それぞれ現在進めている最先端の研究内容を、背景となる学問分野の基礎知識とともに高校生・中学生に分かりやすく説明し、理系を中心とした研究への理解と興味を促すイベントです。科学技術を基礎とした日本の国造りにとっては、幅広い分野の研究を進めていくことが重要です。高校生・中学生に“科学のおもしろさ”と“自然・生命の神秘、深遠さ”を伝え、人類社会への科学の貢献、その重要性などについて理解を深めてもらうことを目指しています。

おかやまサイエンス・トークは、県内の希望する高等学校・中学校と岡山大学の共催で開催しています。学校には会場の準備をお願いし、岡山大学では講師派遣や資料準備に必要な経費を負担しています。毎回、WTT教員と大学院生による研究紹介に加え、研究紹介者と参加者の間でのフリートーキングの場を設け、参加者が“少しだけ先輩”の女性研究者や大学院生と、身近な科学の問題や大学での学習、研究等についてざっくばらんに話し合い、将来について考えます。

おかやまサイエンス・トークは、女性研究者支援を目的とする女性研究者モデル育成事業（文部科学省科学技術振興調整費補助金）に本学の「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」が採択されたのを機に、平成22年度から実施を開始しました。平成24年度8月末までに、合計14回（平成22年度4回、平成23年度5回、平成24年度5回）実施しています。

おかやまサイエンス・トーク実施報告　平成２４年度　第１回～第５回

第1回 おかやまサイエンス・トーク in 岡山県立高松農業高等学校

日　時：平成24年7月6日（金）
13時30分～14時45分
参加者：4年制大学進学希望者等
22名

「乾燥地の緑化について考えてみよう」
牧野　友哉 氏（大学院環境生命科学研究科・博士前期課程1年）

「日本の水田開発と環境問題」
本田　恭子 氏（大学院環境生命科学研究科（環）特任助教）

第2回 おかやまサイエンス・トーク in 岡山県立総社高等学校

日　時：平成24年7月11日（水）
14時～15時30分
参加者：自然探求コース1～3年生
約60名

「新規抗マラリア薬の開発研究」
片本　茜 氏（大学院医歯薬学総合研究科（薬）・博士前期課程1年）

「薬の体内流通システム：薬物トランスポーター」
日浅　未来 氏（大学院医歯薬学総合研究科（薬）特任助教）

研究紹介者の声

- 準備は結構大変だったが、高校生も発表を良く聞いてくれてよかった。
- 学会とは違う経験ができた。今回参加して、非常に有意義だった。
- 非常に熱心に話を聞いてくれる生徒が多く、私も熱が入った。

第3回 おかやまサイエンス・トーク in 学校法人作陽学園 岡山県作陽高等学校

日　時：平成24年7月13日（金）
10時30分～12時
参加者：スーパー特進コースおよび
特別進学コースの1年生等74名

「血小板はどのようにしてATPを蓄積するのか?」
外川　奈津子 氏（大学院医歯薬学総合研究科（薬）・博士前期課程2年）

「物質中の電子の動きを探る」
江口　律子 氏（大学院自然科学研究科（理）特任助教）

参加した高校生より

- 身近な話が聞けて、とても参考になりました。大学へ行くのが楽しみになりました。
- 普段聞くことのできない研究室についてのことが興味深かったです。研究者もおもしろそうだなと思いました。
- 薬学や動物の研究は楽しそうだ。研究者の中には今現在女子が何%くらいいるのか気になった。
- 先生方の質問に対する応答がためになったし、分かりやすくて勉強になった。
- 勉強は嫌いだけど、好きな教科を一つでもつくろうと思った。

第4回 おかやまサイエンス・トーク in 岡山県立矢掛高等学校

日　時：平成24年7月24日（火）
14時00分～15時30分
参加者：2年生および3年生の
理系生徒等約50名

「Yen系統のレトロトランスポゾン挿入部位の分析によるポリネシアへのサツマイモ伝播解析について」
田原谷　薫 氏（大学院自然科学研究科・博士前期課程2年）

「日本の農家を守ろう!動く遺伝子トランスポゾンとその応用」
門田　有希 氏（大学院環境生命科学研究科（農）特任助教）

第5回 おかやまサイエンス・トーク in ノートルダム清心学園 清心女子高等学校

日　時：平成24年8月23日（木）
13時55分～15時35分
参加者：生命科学コース1～3年等
約70名

「ニュートリノとスーパーカミオカンデについて」
森　俊彰 氏（大学院自然科学研究科・博士後期課程2年）

「健康に生きていくために―アロマセラピーを用いて―」
飯尾　友愛 氏（大学院保健学研究科　特任助教）

おかやまサイエンス・トークの実施目的と効果

持続型人材育成部門長　坂口　英（大学院環境生命科学研究科・教授）

前項「概要」に書かれているように、おかやまサイエンス・トークは、“科学のおもしろさ”と“自然・生命の神秘、深遠さ”を知ってもらい、理系を中心とした研究への理解と志向に対するきっかけを提供することを目的としています。特に女性の理系研究者が少ない現状から、持続的に有能な女性研究者を養成していくために、次世代予備軍としての女子中学生、女子高校生の理系志向を育むことは重要です。この取組みによって、理科離れや理系離れの風潮のなかで、積極的に理系に興味を持つ学生の増加、理系への進学者の増加、さらに研究者への道に進もうと考える学生の増加に結び付くことを期待しています。特にロールモデルとしての女性研究者と身近に接することで、研究者を志向する女子学生の増大に結びつくことを願っています。

この目的を達成するために、岡山大学 WTT 教員と大学院生による研究内容に関する講演を中心に据えて、フリーディスカッションを織り交ぜながら、できるだけ中高生に科学の魅力をわかりやすく伝えること、また理系分野において研究することの楽しさと、研究内容が意外に身近なものであることなどを伝えることに部門を挙げて努力しています。特に研究紹介者として参加していただいている教員、大学院生の皆さんには、練習会を含めた準備にも多大な労力を提供してもらっています。みなさんが、研究内容や研究生活などを限られた時間内で分かりやすく発表することに苦心されており、工夫を凝らしたすばらしい発表になっていると思います。

本取組みの最終目標は、理系への女子学生の進学数の増加、理系の女性研究者を志向する学生数増加をはかることであり、この観点からは事業の成果を現時点で示すことはできません。しかし、中高生に“科学のおもしろさ”と“自然・生命の神秘、深遠さ”を知り、理系分野への興味を覚えてもらうことも、当面の重要な目標です。この点については、サイエンス・トークを実施した高校および中学校でのアンケート結果から評価することは可能です。

参加した中高生のうち、研究紹介のレベルについて「難しい」と感じた生徒が全体の 4 割強ありました。このことは、予備知識が少ない中高生に短時間で研究内容を分かりやすく紹介することの難しさを示すものと素直に受け止め、発表方法や内容をさらに検討する必要があると感じるべきでしょう。しかし高校の教科でもすべての生徒が易しいと感じる内容ばかりではないことや、初めて聞く内容は多くの場合難解に感じるものであること、また紹介内容についての印象は「面白い」、「勉強になる」と答えた生徒がほとんどであったことを加味すれば、研究紹介は概ね適度な難易度で行われたものと判断できます。さらに「このような機会があったらまた参加したい」と答えた生徒が 9 割以上を占めていたことから、本取組みで行われた研究紹介が理系研究への興味を深め、理系学部への進学、科学への志向の動機を少なからず与えたとみなすことができます。

前述のように所期の効果はまだ明確に把握できていないものの、このサイエンス・トークを、今後どのような形で行うべきか、改善すべき点は何か、あるいは継続すべきか否かなど、評価・反省を繰り返しながら進めていくべきと考えています。このためには、中学、高校生の本取組みに対する感想や効果の把握は一義的に重要ではありますが、協力していただいている教員、大学院生にとって参加することの負担の重さ、意義、意識などについて把握することも重要であることはいうまでもありません。研究紹介者からのアンケートに対する回答をみると、中高生を対象にして自らの研究内容を説明し理解を得ることの難しさや、発表方法に更なる工夫の必要性を感じたこと、また視野が広がり研究に対するモチベーションが上がったことなどの感想が多く書かれており、ほぼ全員が「このような機会があったら再び参加したい」と答えています。このことから、若手の研究者にとって本事業に参加することは、日々の研究活動だけでは得られない多くのことを学ぶことができ、将来の発展へとつながる良い機会になっているとみなすことができます。若手女性研究者、女子大学院生に対して良い刺激を与えることは、大学全体の活性化にとっても促進的に働くものと考えられることから、本取組みみは本来の目的の達成だけではなく、特記すべき波及効果をもたらしているということができます。

平成24年度 今後の予定 第6回〜第9回

今後、次の 4 校を訪問して実施する予定です。

第6回	9月25日	みつ朝日学園朝日塾中等教育学校
第7回	10月 6日	岡山県立勝山高等学校
第8回	10月18日	森教育学園岡山学芸館高等学校および清秀中学校
第9回	10月19日	岡山県立岡山一宮高等学校

※平成25年度の実施については未定ですが、毎年1〜2月頃に県内の高校に実施の希望を募っています。開催を希望される学校は男女共同参画室までご連絡下さい。

2012 年岡山大学オープンキャンパス参加企画

理系の魅力

女子高生の皆さんへ

協力者一覧

理　学　系：杉森　聖子さん・山口　佳織さん
工　学　系：石田　郁さん・本仲 君子さん・山本 祐子さん
農　学　系：田原谷　薫さん・傳 真理子さん・西山 愛さん
薬　学　系：片本　茜さん・加藤　百合さん・田中　範子さん
環境理工学系：仁内 実和さん

8月3日・4日に岡山大学で開催されたオープンキャンパス参加企画として、『理系の魅力 女子高生の皆さんへ』を実施しました。当日は、理系の研究科に所属する女子大学院生10名および薬学部の5年生1名、合計11名が、友人あるいは父兄と来場した200名近くの高校生を対象に、個別に入試の準備や大学での学習や生活について説明しました。会場では、協力した学生・院生が作成した各々の学部や研究内容についての紹介ポスターを展示し、希望者にはプリントを配布しました。

男女共同参画室では、オープンキャンパスへの参加を平成22年度に始めました。昨年度からは女子学生・院生の協力を得て、女子高校生に理系の魅力を伝え、理系学部への進学を支援することを主な目的として実施し、好評を博しています。協力者の中には昨年に引き続き協力してくれた大学院生もいます。

おかやまサイエンス・トークと同様、事前に説明会および準備会を実施し、お互いに研究内容の紹介をしたり、専門分野について説明したりして準備を行いました。協力していただいた皆さん、どうもお疲れ様でした。

工学部 オープンキャンパスにおける 女子学生向けイベントの開催

工学部副学部長　横平　徳美
大学院自然科学研究科　教授

工学部では、女子学生に工学部への興味を持ってもらうとともに、女子学生の入学者を増加させる目的で、昨年度から、オープンキャンパスにおいて、女子学生を対象としたイベントを開催しています。今年も、8月3日（金）と4日（土）の両日、12時頃～3時頃まで行いました。イベントの内容は、参加した女子生徒（主に女子高生。2日間で75名）、工学部女子学生（2日間で20名）、工学系修士女子学生（2日間で11名）および工学部教員（2日間で8名）が下の写真のようにいくつかのテーブルに分かれ、サンドイッチ、おにぎり等の軽食やデザートを取りながら、face-to-faceでお互いに質問をしたり、質問を受けたりといった気軽で自由な形にしました。女子高生からは、受験学部や受験学科の決め方、大学での講義内容、大学生活、大学卒業後の進路（就職状況、女性技術者・女性研究者の将来性）など様々な質問がありました。女子高生にとって、現役の学部女子学生や修士女子学生の生の意見や思いを聞くことができ、有益なものになったと考えています。

「プロフェッショナルを目指すあなたへ」

男女共同参画の視点に立ったキャリア教育　２年目の実施報告

昨年に引き続き、男女共同参画の視点に立ったキャリア教育科目として、前期に「プロフェッショナルを目指すあなたへ：男女共同参画社会のライフ・デザイン」を教養教育において主題科目（人間と社会・2単位）として開講しました。男女を問わずに多様な職業選択が可能となるように教育・学習を充実させることは、第3次男女共同参画基本計画（平成22年12月17日閣議決定）でも取り組みが必要な重点分野の1つにおかれているところです。

今年度は、数あるプロフェッショナルの中でも特に女性が少ない「研究者」を目指す女子学生を応援するため、本学の教員を中心とした研究者9名を含む14名に講師をお願いしました。講義では、現在、プロフェッショナルとして活躍している講師が、自らの仕事内容や職業生活、これまでの人生経験に関する話をしました。受講生は、話を聞くだけでなく、他の受講生と意見交換したり講義内容に関するレポートを書いたりすることで自らのキャリア目標および目標達成のために必要なことについてじっくり考える事ができたようです。

受講生は、昨年と同様に多様で、男性15名に対し女性18名、人文社会科学系14名に対し自然・生命科学系19名となりました。

平成 24 年度の協力者一覧　〈50 音順、敬称略〉

〈学内〉

沖　陽子	大学院環境生命科学研究科　教授
川畑智子	大学院医歯薬学総合研究科　助教
坂口英	大学院環境生命科学研究科　教授
田中共子	大学院社会文化科学研究科　教授
富岡憲治	大学院自然科学研究科　教授
中谷文美	大学院社会文化科学研究科　教授
名倉弘哲	大学院医歯薬学総合研究科　准教授

〈学外〉

赤沼三恵	（株）クレハ生物医学研究所安全性評価研究室 室長
岩藤弘子	岡山県保健福祉部医薬安全課　課長
金井陽子	岡山労働局雇用均等室　室長
杉山千歳	浜松大学健康プロデュース学部健康栄養学科　准教授
服部道明	岡山市教育委員会指導課教育支援室　指導主査
益谷美都子	（独）国立がん研究センター研究所ゲノム安定性研究分野　分野長
真辺和美	岡山市男女共同参画社会推進センター 企画調整監

担当

保坂雅子	男女共同参画室　助教（特別契約職員）
根岸友恵	大学院医歯薬学総合研究科　准教授

研究支援員事業利用者紹介

研究支援員事業を利用して得られたもの

大学院教育学研究科　講師　酒向　治子

私が岡山大学に着任したのは平成22年の4月です。夫が県外に単身赴任ということもあり、仕事の傍ら家事・育児も私が一人でこなしていました。授業をはじめ部活動の顧問や大学内外の様々な仕事も増えていき、こなしてもこなしても終わらない作業の連続にパニックになりかけておりました。その頃研究支援員事業のことを知り、藁をもつかむ心境で応募致しました。

研究支援員の上山由希さんによる支援が始まったのは、平成23年の11月からでした。当時私は岡山市内の市立中学校の教員と協働し、本年度必修化をむかえた中学校ダンスの授業研究を進めていました。そこで生じた最大の問題は、常に増え続ける研究に伴う実験データをいかに効率的に整理するかということでした。保育園児の息子が特に病気がちであったこともあり、限られた研究時間を要領良く使って作業をこなしていくということが、大変難しい状況にありました。上山さんは工学部に在籍しており、パソコンをはじめ細かい作業がとても得意な方で、ビデオデータのパソコンへの取り込み・DVDへの焼き増し、膨大なファイルの整頓の仕方に関するアドバイスなど、私が不得手であることを積極的に補助してくれたことで、研究が格段に進むようになりました。また必要なオフィス用品の注文・論文の整理・必要書類の郵送など、日頃の些細な雑用も彼女にこなしてもらうことで、物理的な時間が確保できるようになりました。何よりも有難いのは、「助けてくれる人がいてくれる」という心理的な面での強い支えになってくれていることです。

もしこの制度を利用していなければ、押し寄せる仕事の量に潰されていたかもしれません。この研究支援制度を勧めてくださいましたダイバーシティ推進本部男女共同参画室のサポートに心より深く感謝しております。そして、これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

第１回　交流サロンの実施

小松　泰信　教授

平成24年度第1回交流サロンとして、小松泰信　教授（大学院環境生命科学研究科）を講師にお迎えし、「女の言い分、男の言い分、やっぱりイーブンー複眼的男女共同参画社会論事始めー」を7月17日（火）に開催しました。小松教授は農業協同組合論や農業経営学がご専門で、男女共同参画について全国各地でご講演されています。

講演では、「2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%に」という我が国におけるポジティブ・アクション（女性が少ない現状を積極的に改善する取組）が必要な現状とその具体的な方法について、易しく説明されました。その後、家庭や職場においてどの程度男女共同参画が進んでいるのかについて、統計データ等を用いて説明されました。

Salon

最後に、小松教授が実施した「S市における町内会長へのアンケート調査」の結果を引用して男女の間での幸福感や自殺率の違いを紹介し、今後も男女の「パートナーシップ（対等な協力関係）」が必要だというメッセージを送られました。

交流サロンの後半では、参加者が5～6名ずつのグループに分かれ、日頃の男女共同参画についての考えや、経験について話しあい、教職員、学生、一般市民の皆様の間で意見や経験を共有することができました。

男女共同参画室では、平成21年度に「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」を開始して以来、9度に渡り学内外の講師を招き、男女共同参画の諸問題について語り合う交流サロンを開催してきました。これまでにすでにのべ400名以上もの方々に参加していただいています。

女性サポート相談室だより

平成24年8月9日（木）、創立50周年記念館　中会議室にて、女性サポート相談室主催　メンタルヘルス研修『目に見えない　人と人との繋がりを知る　原子価論から見た人間関係』を実施しました。小畑相談員を講師として、約90分にわたり研修を行いました。

化学における「原子価」の概念を心理学に転用した「原子価理論」の立場から、どのような人と人との繋がり方がメンタルヘルスに影響を及ぼすのかについて説明がありました。

研修の一環として、自分が他者とどのようにつながっているのかを把握するための心理検査「VAT」の簡易版を実施し、自己採点によって、自分の原子価パターン（つがい・闘争・逃避・依存）が明らかになると、それぞれの説明を聞いていた参加者たちは、とても納得していた様子でした。原子価のパターンには、健康的な水準と病理的な水準があり、前者は人と人が成長できる関係、後者は人と人との破壊的な関係を指し、人とつながらない関係が、個人のメンタルヘルスに強く影響していると語っていました。まとめとして、まず自分のつながり方を知り、次に他者のつながり方を理解することによって、円滑な人間関係作りに役立つことができること、そして、教育や仕事において他者とつながることは基本であり、それがなければ、教えること、教わること、仕事を協力してすることさえできない、従って人と人との健康的な繋がりはとても重要であると話していました。

小畑相談員の研修後の質疑応答やアンケートからは、「自分や家族のつながり方を知ることができた」「知識でストレスを軽減できると感じた」「とても勉強になった」などの感想が述べられました。

当日は、暑い日にも関わらず26名の教職員の皆さまにご参加いただきました。ありがとうございました。

男女共同参画室

室員および関係スタッフ紹介

室長

沖　陽子	大学院環境生命科学研究科（環）・教授

副室長

富岡憲治	大学院自然科学研究科（理）・教授

室員（部門長には※）

大槻高史	大学院自然科学研究科（工）・教授
片岡仁美※	大学院医歯薬学総合研究科（医）・教授
五福明夫	大学院自然科学研究科（工）・教授
坂口英※	大学院環境生命科学研究科（農）・教授
中谷文美	大学院社会文化科学研究科（文）・教授
柴倉美砂子	大学院保健学研究科・准教授
根岸友恵	大学院医歯薬学総合研究科（薬）・准教授
篠原陽子	大学院教育学研究科・講師
大山和美	大学院医歯薬学総合研究科（歯）・助手
白髭明	自然系研究科等事務部総務課・課長
忠田敦志	大学院医歯薬学総合研究科等事務部総務課・課長
瀬藤暢良	総務・企画部人事課・主査
松田千寿栄	総務・企画部人事課・事務職員
保坂雅子	男女共同参画室・助教（特別契約職員）

女性サポート相談室

小畑千晴	男女共同参画室・コーディネーター

総務・企画部人事課ダイバーシティ担当

早川みどり	総務・企画部人事課・総括主査
石崎芙美子	総務・企画部人事課・事務職員

新室員紹介

＼よろしくお願いします！／

大槻（おおつき）　高史（たかし）

大学院自然科学研究科（工）・教授

今年度から室員となりました大槻です。これまでの男女共同参画室の取り組みで、ワークライフサポート、WTT事業、人材育成などが進み、数年前とは明らかに変わったと実感しています。途中参加ではありますが、これらの取組に協力していきたいと思います。

今後の予定

10月24日（水）14:00～　会場／本部棟第一会議室
- 第3回男女共同参画に関する管理職セミナー

10月30日（火）13:15～　会場／教育学部第一会議室
- 平成24年度第2回研究スキルアップ講座

10月30日（火）15:00～　会場／教育学部第一会議室
- 平成24年度第2回WTT教員交流会

12月4日（火）14:00～　会場／本部棟第一会議室
- 平成24年度WTT教員研究発表会

1月頃
- 平成24年度第2回交流サロン

ミニコラム　データで見る岡山大学 男女共同参画の現状5

大学院への進学状況

産業の高度化に伴い専門的な知識や技術を持つ職業人が求められるようになり、高学歴化が進展しています。現在、大学卒業後に直ちに大学院に進学する4年制大学卒業者の割合は12.8%に達していますが、専門分野や国公私立といった大学の設置主体を問わず大学院への進学者の割合は女性に比べて男性の方が高くなっています（平成23年度学校基本調査による）。

岡山大学でも同様の傾向にあり、男性の進学率が女性の進学率を上回る学部が多くなっています。特に、博士前期課程（修士課程）に進学することで技術職や研究職といった専門的な職につく可能性が格段に高くなる自然科学系の学部での男女の進学率格差は大きく、最も格差が大きい農学部では、男性の進学率が63.1%であるのに対し、女性の進学率が18.8%と44.2%の差が生じています。

Q クイズ

平成23年度卒業者において、女性と男性の進学率の格差がほとんどなかった（5%以下）学部はどの学部でしょうか？

※答えは下

編集後記

本年度第1号（通算第8号）のニュースレターをお届けいたします。男女共同参画室は本年4月より新たな体制で始動しました。文部科学省科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成」事業、「学都・岡大発　女性研究者が育つ進化プラン」は昨年度で終了しましたが、女性研究者をサポートする基本的な体制はほぼ確立することができました。WTT教員の中にも既に出産・育児を経験され、この事業中に確立した支援システムを実際に利用されている方もあります。それらの先生方にも記事を書いて戴いておりますが、大変好評であり、支援する側として大変嬉しく思っている次第です。

本年度も昨年度までに引き続き、男女共同参画に関する事業に取り組んでおり、8月までに既にいくつかの事業を行ってきました。今後実施する事業につきましても、このニュースにカレンダーを掲載しておりますが、ホームページや電子メール等でも随時お知らせする予定です。皆さんの積極的な参加をお待ち申し上げます。

お問い合せ

国立大学法人　岡山大学
ダイバーシティ推進本部　男女共同参画室

〒700-8530
岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL：086-251-7011　FAX：086-251-7033
Email:sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo

クイズの答え：法学部(-1.0%)、経済学部(-0.9%)、経済学部(夜間主)（0.0%)、医学部(医)（0.0%))、歯学部(0.0%)、薬学部(薬(2.5%)・創薬(3.4%))。